

平成27年教育委員会臨時会会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成27年5月21日（木）
開会：午前10時 閉会：午前10時30分
- 2 開催場所 教育委員会室
- 3 会議次第
○議題の非公開について
○議案第58号 平成27年度教育費6月補正予算案に関する意見について
○議案第59号 学校運営協議会の委員の委嘱について
- 4 出席委員
桶谷委員長、本郷委員長職務代理者、前田委員、井上教育長
- 5 会議に出席した説明員
松井教育次長、船見政策監、井口学校安全政策監、都賀学校教育課参事、
鮫島教育総務課長補佐、高田学校教育課副参事、森学校教育課指導主事
- 6 会議に出席した事務局職員
伏見教育総務課主幹、奥川教育総務課主任、伊藤教育総務課主任
- 7 会議を傍聴した者
(1) 一般傍聴者 0人
(2) 市政記者等の傍聴者 0人
- 8 議事の経過 別紙のとおり

(議事の経過)

開会 委員長が臨時会の開会を宣言

議題の非公開 議案第58号及び議案第59号について非公開とすることを可決

議案第58号 平成27年度教育費6月補正予算案に関する意見について

【説明】

○鮫島教育総務課長補佐 6月補正の予算案の規模及び各会計別の一覧表について、一般会計では、補正額3,875万7,000円のうち教育委員会の所管、教育費に係る補正額として、3,275万4,000円となっている。

教育委員会教育総務課が所管の補正予算の概要について、1点目が、皇子山中学校大規模改造事業に係る補正。この事業は、平成25年度から平成27年度事業に実施しており本年度が最終年度であり、今年度、体育館の改修工事を実施するに当たり、体育館の屋根を再度調査したところ、屋根部分の老朽化が非常に激しく、雨漏りの箇所が数カ所散見された。当初設計では、塗装工事のみで措置していたが、傷みの程度が非常に激しいため、設計変更したところ、シート防水という形で改修する必要が生じた。これに係る設計変更、工事費が今回1,665万4,000円補正となった。

2点目は、中学校給食の導入に係る校舎等改造の検討業務委託費の新規での追加補正である。これは、東部共同調理場の新設に伴い、中学校給食が開始されるまでの間、学校施設の受け入れ態勢を整える必要があることから、各中学校の配膳室及び、それからエレベーター等の整備に係る配置検討業務を今年度実施するに当たり必要な経費を措置するものである。補正額は、1,380万である。

○都賀学校教育課参事 補正は、事業名、学校体育指導推進費、運動部活動指導の工夫・改善支援事業。事業費としては230万円で、財源内訳は全額、特定財源である文部科学省の委託事業である。事業概要としては、国からの実践研究委託事業であり、女子生徒の参加しやすい運動部活動づくりなど多様な運動部活動に向けた指導内容の工夫改善である。積算内訳としては、外部指導者、学識経験者への報償費や旅費、成果報告書等の印刷製本費、施設使用料等の経費である。

【質疑】

○本郷委員 1点目の体育館の屋根の補修であるが、ほかの工事もだが、必ず調査費、設計費、そして工事費と3段階になっていると思う。その上で、最後の工事費のところ、やっぱりダメであったというのは、調査費は何のためということになりかねない。調査機関が施工もするというので一元化したほうが責任の所在がはっきりすると思う。やはり調査費があつて設計費がある限りは、そこに責任を持って当たらないと、お金をかけている意味はないと思う。

2点目は具体的にはびわこ成蹊スポーツ大学が上がっているが、一つ一つこうやって教育機関、大学と連携しながら市民スポーツを盛り上げていこうというのはいいことであると思うので、是非いろんな分野に拡大してもらいたい。

○鮫島教育総務課長補佐 1点目について、設計は施工を依頼している建築課にて、最大限設計段階で調査をして設計しているが、体育館の屋根や校舎等の外壁等についてもだが、高所の部分の調査は、どうしても目視による調査において当初設計を組んでおり、その調査段階で足場を組んでしっかりと老朽箇所を全て把握するという形になると、設計費に相当の費用がかかるため、現状では、足場組んでの設計はしてないということになっている。

○桶谷委員長 その調査は、外注しているのか。

○鮫島教育総務課長補佐 外注である。

○桶谷委員長 外注していて、その業界にとっては、別段普通のことなのか。それとも、調査

をして、こういうことが起こってくることは、調査について不備があったということで恥ずかしいことにあたるのか。

○船見政策監 通常、業者発注するに当たり、当然仕様書をつくって、それに基づいて業者は施工するが、当然高所の場合については、当初、こちらの仕様の中ではそこまで求めていなくて、目視による調査という形で今、発注しており、業者の責任というよりは、こちらの仕様の中での取り扱いということになる。しかし、その段階で足場を組んで、実際の現地の現場をきちっと確認するにはかなりの経費を要するため、施工段階で足場を組んで、工事が進んできた段階でその現場を直接確認している。委員が言ったことについて、それが本当にいいのかどうかということについては、市全体としても、改めて建築課のほうに確認し、今後検討していきたいと考えている。

○本郷委員 調査があるのであれば、調査は調査のようにやってもらうのが本来の筋である。そういう意味でも、何か後でこんなことが見つかったというのもおかしな話であるが一番に思った。そうであればこそ、調査は本来、見積もりを立てるための調査であると思うため、余り大きくずれるというのはどうだろうというところがあるため、ちょっと善処してほしいと思う。

○桶谷委員長 学校教育課のほうだが、アルティメットとは何か。

○高田学校教育課副参事 ラグビーボールではなくフリスビーを飛ばすことで攻防するゲームである。大学にはアルティメット部は幾つかあるが、中学校でアルティメットがあるのは西日本では伊香立だけ。伊香立中学、アルティメット部ができて4年目ぐらいである。

○桶谷委員長 このアルティメットやダンスをびわこ成蹊がバックアップしてくれるのか。

○高田学校教育課副参事 特にアルティメット部のほうのバックアップである。

【採 決】 可決

議案第59号 学校運営協議会の委員の委嘱について

【説 明】

○都賀学校教育課参事 学校運営協議会の委員は、指定学校の校長を含め10人以内と大津市学校運営協議会実施要綱で定めている。そこで、皇子山学区の地域住民の中から地域性や学校への理解、協力の姿勢を考慮し、在校生の保護者も加え、校長から推薦があり、推薦された10人を皇子山中学校学校運営協議会の委員として任命するものである。

【質 疑】

○桶谷委員長 皇子山は小学校4学区であるが、その4学区から選ばれているのか。

○森学校教育課指導主事 推薦は自治連合会長からの推薦と聞いている。各学区から2名程度ということ聞いている。

○本郷委員 各学区から2名ということであるが、それぞれ小学校規模に大分差があるように思うが、各2名でいいのかというのは、少し気になる。今後の選び方としては、もう少し何か全体的なバランスを考えたほうがいいかなと思う。

○都賀学校教育課参事 全ての学校で行っている学校協力者会議も各学区から公平に出すという形で委員を選んでいるケースが大変一般的であり、多分皇子山についても、そういう今までの流れの中で各学区2名ということで委員の推薦を行ったと思うが、本郷委員からの指摘については、今後の参考にさせていただく。

○本郷委員 一つ気になったのは、長等小学校はほぼ全員皇子山に行くと思う。志賀小学校は、大半は、本当は唐崎であると思う。そのうちの一部だけが皇子山に来るが、そこからも2名というのが気になる。あと、藤尾はそこまで大きな学校ではないと思うので、ここも2名というのが気になる。そのバランス的にどうだろうというのが気になる場所である。

○都賀学校教育課参事 実際は志賀小学校が学校選択で大方皇子山に来るので、皇子山中では、3分の1は志賀小学校、3分の1は長等小、あとの3分の1が比叡平、藤尾という balan

スになる。

○井上教育長 一つの学区、小学校区から1人というのよりも、やはり複数の方が出るほうが良いと思う。限られた定数の中でとなると、やはり2人ずつというのが適切であるという気もする。子供たちとか人口の規模の大小にかかわらず、地域の代表ということであれば、別に私は同数でも良いのではないかと思う。ただ、言われたこともよくわかるので、また今後のコミュニティ・スクールをしていただく学校については検討していきたいと思う。

【採 決】 可決

閉会 委員長が臨時会の閉会を宣言